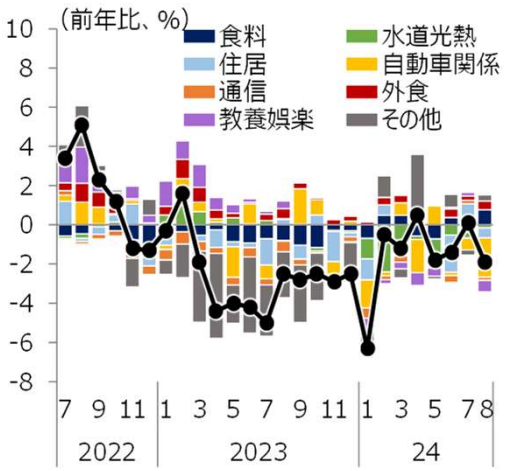
日本

家計調査報告（2024年8月）

# 消費は自然災害の影響で停滞、実質賃金プラス定着が回復の鍵

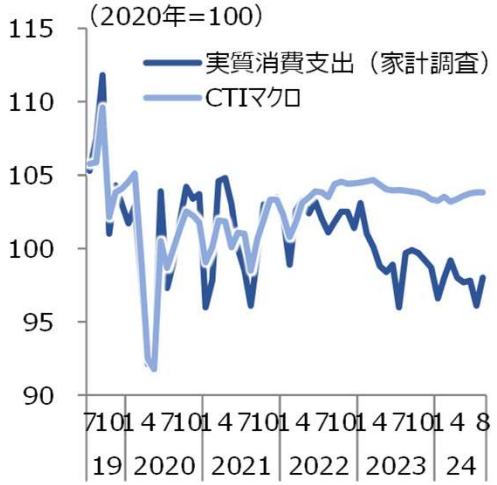
政策・経済センター
**北川諒**
03-6858-2717

## 1 実質消費支出（品目別前年比）



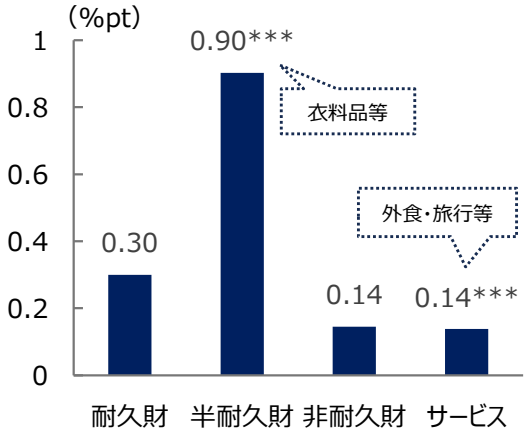

注：二人以上の世帯。
出所：総務省「家計調査報告」より三菱総合研究所作成

## 2 実質消費支出・CTIマクロ



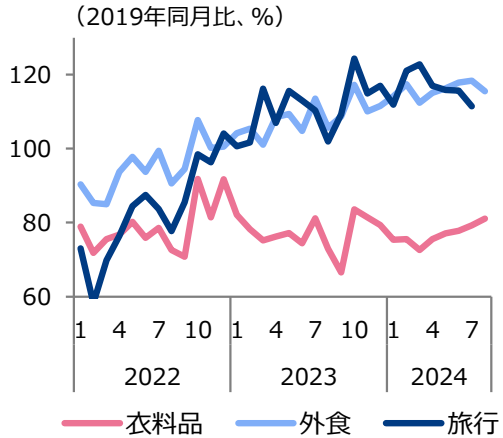

注：季節調整値。実質消費支出は二人以上の世帯。
出所：総務省「家計調査報告」「消費動向指数」より三菱総合研究所作成

## 3 消費者マインド変動による消費の変化




注：サンプルは2013年-2019年の四半期データ。被説明変数に形態別実質消費、説明変数に家計の実質可処分所得、消費者マインド、消費税率引上げダミーを用いて消費関数を推計。***は1%水準で有意。
出所：内閣府「国民経済計算」「消費動向調査」より三菱総合研究所作成

## 4 外出関連業の売上高動向




注：各業界の名目売上高の2019年同月比。衣料品は織物・衣服・身の回り品小売業。
出所：経済産業省「商業動態統計」、総務省「サービス産業動向調査」、日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

### 今回の結果

- 24年8月の実質消費支出（原数値、二人以上の世帯）は、前年比▲1.9%（7月同+0.1%）と減少に転じた（図表1）。
- 品目別には、食料（前年比寄与度+0.77%pt）や外食（同+0.45%pt）などがプラス寄与となった一方、自動車関連（同▲2.01%pt）や教養娯楽（同▲0.42%pt）などがマイナス寄与となった。台風10号等の自然災害に伴う外出自粛の影響が出たとみられる。
- 前月と比較可能な実質消費支出（季調値）は、前月比+2.0%と、2カ月ぶりに増加に転じた（図表2）。

### 基調判断と今後の流れ

- 家計調査の実質消費支出は、一時的要因による下押しもあり、弱い動きが続いている。ただし、他の消費関連統計では、個人消費は下げ止まりの兆しもみられる。総消費動向指数（CTIマクロ）は、4月以降は緩やかな上昇傾向にある。
- 先行きの個人消費は、実質賃金の改善を受けて、緩やかに持ち直すとみる。所得見合いでの回復に加えて、実質賃金改善を起点とした消費者マインドの改善が追い風になるだろう。
- 実質賃金は、コストプッシュの物価上昇圧力が緩和するなか、人手不足感の強まりを背景に高い名目賃金上昇率が継続し、均してみれば前年比プラスが定着する見通し。過去、実質賃金のプラスが続いている局面では、消費者マインドは回復傾向にある。実質賃金改善を起点に家計の恒常的な所得への見通しが明るくなることで、物価高を受けて伸び悩んでいたマインドも改善に向かうとみる。
- 消費者マインドの改善が家計の消費に与える影響を確認するため、形態別消費を被説明変数、消費者マインド等を説明変数とする消費関数の推定を行うと、半耐久財やサービスの係数は有意に正となり、外出関連消費とマインドの相関が伺える（図表3）。足もとでは衣料品は回復の遅れが目立ち、外食、旅行の増勢も一服しているものの（図表4）、マインド改善に伴い需要回復が期待される。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.